

佐藤大輔さん(博士後期課程2年)が2015日本放射化学学会年会・第59回放射化学討論会において若手優秀発表賞を受賞しました

平成27年9月25日から27日に東北大学川内北キャンパス(仙台市)において開催された2015日本放射化学学会年会・第59回放射化学討論会において、大学院自然科学研究科・数理物質科学専攻化学コース・博士後期課程2年の佐藤大輔さんの研究発表が若手優秀発表賞を受賞しました。

天然に存在しない人工放射性元素である105番元素ドブニウム(Db)は、取扱い可能量が極めて少なく、非常に短い半減期を有していることから化学研究が困難であり、その性質には不明な点が多く存在します。佐藤大輔さんはDbがフッ化物イオンと反応した際にどのようなフッ化物錯体を形成するのかを調べることを目的に、これまでDbの同族元素であるニオブ(Nb)およびタンタル(Ta)を利用して基礎的な研究を進めてきました。今回Nb、Taの短寿命放射性同位体を用いたフッ化物錯体の固液抽出実験を行い、本実験手法がDbに適用可能なほど迅速に実験が行えるものであることを示しました。

発表者：佐藤大輔 (新潟大学大学院自然科学研究科・博士後期課程2年)

(指導教員：工藤久昭 教授)

演題名：105番元素Dbの化学実験のためのAliquat 336樹脂を用いたNb、Taのフッ化水素酸中からの固液抽出

リンク：<http://sorc59.com/>



左上写真、発表の様子

右上写真、授賞式の様子

左下写真、受賞した表彰状